

令和5年度取組状況

ものづくり工学科 電気電子工学コース 教授 曹 梅芬

取 組 状 況	
教育	1. 座学と実験の連携 座学と実験を連携させることで、学生の理解度と学習意欲を向上させることができた。座学の配布資料に各々の項目が実験のどのテーマに関連するについて明記し、実験時にもその授業の資料を用いて説明することにより座学と実験のタイミングのズレによる影響を軽減した。 2. 授業用PPTの作成と予習シートの導入 担当科目の授業用PPT資料を改善した。PPT資料を事前にWEB配布することで、学生の予習復習にも役立てられた。予習シートを導入し、予習・復習の習慣付けを促しながら、問題点を中心に授業中に解説を加えるなど、教育効果の向上のための工夫をした。「電気機器学II,III」では、電験3種問題を追加演習として取り入れ、学生の実践力と応用力の向上を図った。 3. ゼミ・卒研・特研の指導 基礎勉強会のほかに、5年生輪講・発表練習への参加も取入れたゼミ指導を行った。卒研とゼミの輪講(12回)を行った。課題発見と解決能力及び研究方法や論文の書き方など技術者として必要な基礎知識を身につけられるように卒業研究・特別研究を指導した。
研究	特別研究で指導した専攻科生が、自動配送ロボットの屋内配送の支援策として、部屋番号や氏名が記載されたネームプレートを用いた自己位置推定手法を提案した。さらに学会発表に向けて論文を準備し始めた。
社会貢献	研究分野・成果のアピール 教員シーズ集などを通じて、研究分野・成果をアピールし、企業からの受託研究や技術相談などの要請に対応できる体制を整えた。